別紙様式1

令和5年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し、よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され、生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において、単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	○学習者基点の能動的で深い学びにつながる校内授業研究の充実 ○第三中学校区学力向上に資する小中連携及び、結果にコミットできる授業改善 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」を全ての授業で実施 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK）、個別最適な学習及び家庭学習の充実とともに、知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施 ・第三中学校区学力向上プロジェクト推進委員会の実施	3P 3回 6回 3回	3P 2回 11回 0回		100% 67% 183% 0%	A C A D	・全国学力学習状況調査において、全国平均は下回っているが、昨年度比3P改善した。記述問題の無回答率も前年度より1.9P改善した。 ・全体、教科毎、学年毎の授業研究会は計画通り実施し、目標値を上回っている。指導案作成、事前事後協議を通じて、授業改善に取り組んでいる。 ・推進委員会は実施することができなかったが、校種間の授業交流を計画している。	・GKタイム等を活用した、知識・技能の定着と結果を授業改善に生かす。 ・記述式（思考・判断・表現）問題における無答率減少の取組を継続する。 ・深い学びに迫る授業研究を継続して取り組んでいく。 ・授業交流等を通して、生徒の学力課題を共有し、授業改善を図る。	○			・学習状況調査において成果が出ていることは、素晴らしいことです。日常の取り組みの成果だと思います。 ・生徒が落ち着いて授業を受けている姿は、教員が一丸となって取り組まないとできないことです。日頃の先生方の努力に感謝します。 ・学力向上プロジェクト推進委員会の位置づけを明確にしているので、中間評価で達成「O」をどう評価するのか。何故できなかったのか改善して下さい。 ・学力調査結果が全国平均を下回っているということは、基礎学力向上のため家庭学習での授業理解度、学力テストに対する取り組み方法に改善の機会が必要と考えます。
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」 ③家庭学習の肯定的な意識や意欲の向上	80% 80% 80%	81% 85% 93%		101% 106% 116%	A A A	・第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」を全ての授業で実施することにより、授業改善を進めることができた。 ・落ち着いて、授業に取り組む生徒の姿が多くみられるようになった。 ・授業や学校行事、部活動等で、chromebookを使用する機会が増えた。 ・chromebookを使った課題やレポート、まとめ、振り返り、宿題を出すなど、家庭学習においても使用する場面が増えた。	・授業づくり徹底5項目、パブリックスピーキングを全ての授業で継続することによる授業改善を進める。 ・単元のゴールや単元構成を工夫したり、振り返りを行うことで、学習意欲の向上、学習内容の理解につなげていく。 ・ICT支援員の活用、ICT研修参加によってICT使用方法の幅を広げ、分かる授業づくりにつなげる。 ・教員間でのchromebookの活用方法を共有化する。	○			
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により、全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり、結果、不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く、助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り、問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し、2/3以下とする。	○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・生徒が主体となる「三中チャレンジカップ」の実施 ・「学校生活のきまり」を改善する等、主権者教育の促進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・自己肯定感が育まれる肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い、 考えを広めていける」 ・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90% 85% 3回	93% 82% 0回		103% 96% 0%	A B D	・縦割り集団による学校行事を進めることで、異年齢交流を行い、ピア・サポート活動の充実に努めた。 ・昨年度から引き続き、「学校生活のきまり」を見直すため、生徒へ生徒会長から生徒参加の協議を行うことを説明した。今後、協議を行う計画である。 ・三中スタンダードの徹底が図れるように、学期に1回の身なり点検を行い、決まりの確認や三中スタンダードについて啓発を行った。 ・生徒が主体的に参加できるボランティアの機会を増やし、自治的な生徒会活動が実施できた。	・生徒が自ら立案できる「三中チャレンジカップ」を企画させる。 ・取組に目的や意義を持たせることで、成果を肯定的に評価する。 ・三中スタンダードの徹底を図るため、生徒会からの啓発活動を計画、実施していく。 ・生徒会執行部の新旧交代時に、活動の理念や方針を継続し発展させる。 ・ボランティア活動参加への呼びかけを継続する。	○			・「学校が楽しい」と思える生徒の数値が高いことが何よりです。生徒の姿が目に浮かびます。 ・生徒会の活動に期待します。 ・運動会、学習発表会等の練習での生徒の自主性、目標に向かっていく集団での姿は、大変すばらしい。継続して取り組んでください。
			○不登校SSR推進校の取組 ・教育相談Coを窓口とし、生徒支援会議の充実 ・多角的、多面的な生徒理解の充実 ・安心、安全な居場所づくり ・個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 完全不登校 30日以上の不登校数 ・不登校生徒支援会議の開催	0人 30人 各週	2人 33人 各週 実施		－ 91% 100%	D B A	・不登校生徒が増加傾向であり、不登校生徒等生徒支援会議、学年会等で原因の把握や改善に努めた。不登校の要因が多岐にわたっている。 ・個別の支援について担任、学年を中心に検討し、不登校生徒支援会議において再協議することで支援方法の具体化を図った。 ・各週の不登校生徒支援会議において「気になる生徒」を共有し取組方針を協議している。全教職員による共通認識に努めている。 ・SSRやふれあい教室等関係機関との連携により、生徒個々の実態に則した支援に努めた。	・各委員会の実施頻度を高め、個に応じた組織的対応を協議し、全職員共通理解のもとで生徒に関わる。 ・SSRで過ごす時間が、心の安定と個の成長につながる環境を整備し、個に応じた居場所づくりを進める。 ・教室に位置付きにくい生徒について、関係機関との連携を継続し、細やかな支援を行う。 ・定期的な生徒支援に関わる情報交流、研修を実施する。	○			・不登校生徒の取り組みについて、学校の努力だけでは解決しない問題だけに難しいです。教員、生徒、保護者が一体となって取り組んでください。 ・不登校の増加は全国的な課題であり、関係機関との協働・連携の具体的な行動について記載がほしいです。 ・学校内は安心して生活できていると思います。一方で不登校生徒問題については、解決は難しいため、保護者、専門家がひとつになり定期的に研修してほしいです。
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され、学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○価値ある学校行事の実施と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・学校行事の規模縮小 ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%	2項目 83%		133% 119%	A A	・コロナ対応緩和の5月以降、運動会、学習発表会の実施内容について再検討を行い、プログラムの精選を行った。 ・超過勤務60時間以内を目標に掲げ、定時退校の呼びかけを積極的に行うとともに、超過勤務の状況を職員で共有や業務の分担等を見直しを行った。	・生徒にとって活動の意義が実感でき、意欲が高まる行事の精選を図る。 ・働き方改革推進に向けて、計画的に業務を進められるよう、実施した行事の直後に成果と課題を明確にし、次の行事に反映させる。	○			・働き方改革が推進されているようで安心しました。 ・小中連携の成果が出てきているようで素晴らしいと思いました。継続をお願いします。 ・教職員の余業削減については、継続して呼び掛けてほしい一方で、行事の削減、規模縮小ばかりに目を向けないでほしいです。 ・3年間の中で、何か達成感が持てるような学校行事、学習を生徒達が立案できるよう指導して下さい。 ・働き方改革の推進が学力低下にならないようにしてください。
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編制を各学年4学級編制とした、様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通した、小学生及び保護者、小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し、美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動の活性化 ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	学期 1回 6回 24回 月2回	学期 1回 3回 12回 月2回		100% 100% 100% 100%	A A A A	・昨年度末に小中連携を実施し、校区内の学校スタンダードの共通実施に向けての理解を深めることで、第1学年生徒がスムースに学校生活になじむことができた。 ・校内研修では、「本質的な問い」「単元を貫く問い」「本時の目標」を明確にすることで、主体的な学びにつなげていくことを再確認できた。 ・毎月、生徒の活動の様子や行事予定等を学校だよりで紹介した。 ・毎月HPに、学校だより・歳時記等を定期掲載した。	・校区内の学校スタンダードの徹底を図るため、小中連携をより密に実施する。 ・一人一授業研の成果と課題を共有し、学校全体で生徒の主体的な学びに向けた授業改善を進める。 ・メール配信【すぐーる】による学校だより等のタイムリーな情報発信を工夫する。 ・引き続き、学校だより、歳時記等で生徒の活動の様子をHPに掲載する。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。